

同市東地区と布施地区にレ
ベル3の土砂災害警報など
で、今後も参加していき
たい」と話していた。

市原淳市長と玉川社長、結
貝さん(茂原市役所で)

市道点検にシルバー人材

山武市 パトロール健康増進も

市道の損傷や危険箇所を早期に見つけて事故防止につなげようと、山武市はシルバー人材を活用し、試験的に道路パトロール業務に乗り出している。道路の維持管理を強化し、市民が安心して通行できる環境づくりを目指す。
(戸田光法)

公益社団法人「山武市シルバー人材センター」に業務を委託する。来年3月まで、市役所閉庁日を除く平日の午前9時から午後4時まで試験実施する。事業費は約508万円。

会員2人が軽トラック1台に乗ってパトロールする。市が管理する道路計1300キロ超を見回り、路面の穴やひび割れはアスファルト舗装材で応急補修する。破損した側溝ふたがあればセーフティーコーンを設置する。道路にはみ出した草木の除草や伐採、カーブミラーの清掃、ガードレールの落書き除去、落石や

市道パトロールの準備をする高齢者ら



落下物の撤去なども行う。作業前後の状況を記録した写真と位置情報は市へ報告する。

同センターには約480人が登録している。平均年齢は75歳で、広報紙の全戸配布や公共施設の夜間管理、育児支援サービスなど

幅広く活動している。近年道路の陥没が各地で相次いでいることもあり、市はトラブルを未然に防ごうと、道路管理にもシルバー人材を活用することにした。
市はこれまで、市職員が通勤途中や公務中に点検してきたほか、市民からの道

路緊急ダイヤルなどによる通報をもとに道路の補修を行ってきた。道路の破損などの通報件数は2024年度に1470件、25年度も1385件に達するが、補修が必要な箇所の把握や対応が追いついていなかった。

高齢化が進む山武市は、元気な高齢者が地域を支える仕組みづくりを目指している。道路パトロールは、安全な道路環境の確保だけ

千葉ポートタワー40周年

でなく、高齢者の社会参加や健康増進にもつながる取り組みとして注目されそう。県庁で森林行政に携わり、60歳で退職後に同センターへ登録した田沢信さん(75)は「家にもいても仕方がない」と思い参加した。仕事を通じて人とのつながりができ、健康維持にもなる」と話す。元旅行会社社員の

並木清さん(74)も草刈りや樹木伐採に携わり、「体を動かすことで鍛えられる。地域の役に立てることがやりがい」と語る。
市の担当者は「パトロールで通報前に危険箇所を発見できれば事故を未然に防ぐことができ、市の管理責任が問われる事態も減らせる」と期待を寄せる。

成田機能強化「早期実現を」



藤井社長(右)に提言書を手渡す
実川議長(26日、成田空港で)

芝山町会が提言書

成田空港の滑走路新設・延伸など「機能強化」の用地取得が難航している問題で、芝山町議会は26日、成田国際空港会社(NAA)の藤井直樹社長に機能強化の早期実現を求める提言書を提出した。多古町議会も同様の決議書をNAAに出している。
提言書は、同日開かれた町議会の全員協議会で議員12人の総意としてまとめられた。未取得地の多くが芝山町

町光...を長...望...け...るし解なのが増は路...を早上真...0